

科目名	発達心理学特講 A		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間発達心理学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：専門科目の発達領域の科目をある程度学習していることを前提として、特定の特性・能力に関する発達について、より専門的に学習します。本科目では、言語発達とその支援について学習します。

科目の概要：言語の問題は、認知、社会性、情動など他の精神機能と密接に関連しています。そのため、この問題に適切に対処するための言語発達とその支援に関する基礎知識と技法について理解することを目的とします。

学修目標：

1. 言語発達支援に必要な、広い視野から対象を見つめるための知識の修得。
2. 言語発達支援に必要な、評価を可能にする知識の修得。
3. 言語発達支援を行う際の指針となる知識の修得。

内容

1. 言語発達と言語発達支援
2. 言語発達理論
3. 言語発達の生物学的・神経学的基礎
4. 言語発達の社会的基礎
5. 言語発達の認知的基礎
6. 言語発達の概観
7. 言語発達の教育的側面
8. 言語発達の社会的・文化的側面
9. 言語発達支援の現代的問題と支援の場
10. 言語発達評価と診断の要点
11. 言語発達段階に即した対応
12. 場面に即した対応
13. 言語発達評価と支援の実際
14. グループ発表
15. まとめ

評価

日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40% と、期末テストの成績 60% を成績評価の対象とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

初回授業時に指示します。

科目名	発達心理学特講 B		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間発達心理学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会は日々目まぐるしく変化しており、そこで生活する人々の心にも多大な影響を与えている。特に、最近では女性の社会進出は当たり前となり、複雑化していく社会の中で女性たちの生き方も多様化している。男性も女性も自分らしく生きていくために、お互いの行動、価値観、意識などに関する違いを知っておくこと、その違いが生まれる理由について考えることは有意義であろう。したがって、本講義では社会心理学の観点から、人間関係のメカニズムとそのジェンダー差についてより専門的に学ぶことを目標とする。また一般的に、男性と女性は異なる部分が多く、理解しあうことが難しいと考えられる傾向にあるが、そのようなジェンダー差に関する疑問や問題点についても講義の中では解説する。

内容

1. 女性が自分らしく生きるとは？ - 性役割 -
2. 女性の強さと弱さ - 社会的勢力資源 -
3. 出会いにおける女性らしさ - 言語的・非言語的コミュニケーション -
4. 女性の自己表現 - 自己開示・自己呈示 -
5. 女性の自己表現 - 被服行動・化粧 -
6. 女性の友人関係の親密化過程 - 同性・異性の観点から -
7. 女性らしい恋愛における駆け引き
8. 女性らしい失恋への対処
9. 女性の結婚生活
10. 母と子の基本的信頼感の成立
11. 内的ワーキングモデルと恋愛関係
12. 女性にとっての離婚 - 夫婦の愛が終わるとき -
13. 職場における女性の地位
14. 女性とストレスマネジメント
15. まとめ

評価

講義内の質問カードの提出 (30点) 及び試験の成績 (70点) で総合的に判断する。ただし、2/3以上の出席がなければ、試験は受けられない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキストを購入する必要はない。適宜プリントを配布しながら、講義を進める。ただし、参考書などについては授業を進めながら紹介していく。

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

1．科目の性格

本科目は、現在の我が国における、中高年期の人々が直面している諸課題について、その問題を自らに引き寄せて、実感を伴った「想いを馳せる」作業を行うように設計されている。特に、女子学生が受講することを前提に、女性であるからこそ、これから来る自らの中年期と高齢期の生活を、どのように過ごし得るのかに関し、将来的に有用な手掛かりになることを目指して開講する。

2．科目の概要

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点からみた場合に少数派であることであったりと多様である。本科目は、このような前提にたち、中年期と高齢期に、様々に直面する課題について、具体的な題材を手掛かりに、自らの在り方を内省する作業を通し、その現実への対処方策を、それぞれの未来に向けて獲得することを目的とする。

3．学修目標

本科目は、1) 中年期と高齢期の特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか？、2) そのような不利益を被りながら生活する中高年者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか？、3) 社会的な不利益を被りがちな中高年者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか？、の3点の獲得を、学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、まず、題材に関するグループワークの形式により行う。次に、グループワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、各開講回別に取り上げる題材の内容は以下の通りとする。

第1回 ガイダンスと「中高年期の生活の概要」：我が国の中高年期の生活の概要

第2回 「幼児虐待・児童虐待と自分」：児童虐待に苦しむ加害者の痛み

第3回 「幼少期に発病することと支え合う想い」：小児病棟における子ども同士のかかわりあい

第4回 「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実と家族内での親に対する役割期待

第5回 「優性思想と自分」：優性思想とハンセン病回復者に対する断種手術の現実

第6回 「パートナーシップと自分」：ハンセン病回復者の家族へのあり方

第7回 「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差

第8回 「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常

第9回 「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆き

第10回 「里親制度と血縁の意味と自分」：自動的に血縁対象を愛するようになるものなのか？

第11回 「女性に対する差別と自分」：インドの中流階級における「結婚持参金殺人」の現実

第12回 「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実

第13回 「代理出産ビジネスの現実と新たな生命を誕生させることの意味」：米国における代理出産

第14回 「戦争と自分」：現代世界の紛争・内戦・戦争の実質的な担い手の「少年兵」

第15回 まとめ：本講義での学習内容のまとめを行った上で、学習の習熟を測る「期末レポート（小論文テスト）」を講義時間内に実施する。

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『グループワークへの取り組み姿勢』と、それを前提とした毎回の小レポート（講義内容への習熟を測る小論文）の内容を指す。併せて、講義最終回に、期末レポートとして、小論文の作成を求める。成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(グループ学習への取り組み状況や毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート(最終講義回に実施する小論文テスト)』が30点、の構成にて配点し、それを基準として評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

「Days Japan 2008年6月号（特集：処分されるペットたち）」

「Days Japan 2008年9月号（特集：結婚させられる少女たち）」

「Days Japan 2009年5月号（シオラレオネ出産の悲劇ほか）」

「Days Japan 2009年10月号（特集：カンボジア地雷探知犬が救う命）」

科目名	母子関係論		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.科目の性格：本科目は、生涯発達の視点から母親と子どもの関係を学ぶ必修科目です。
- 2.科目の概要：妊娠、出産、育児という過程で展開される養育者、とりわけ母親の発達とその子どもの発達の相互の関係について学びます。
- 3.学修目標：
 - (1) 子どもの発達と養育者との関係について学ぶ。
 - (2) 養育者としての母親の存在について考える。
 - (3) 子育て支援について考える。

内容

1	妊娠・出産と母親
2	養育者と子どもの絆の形成
3	精神的健康の保持と安定した愛着形成のための視点
4	妊娠期からの父母子の関係
5	子育て期のソーシャルサポート
6	虐待の可能性とその防止(1)
7	虐待の可能性とその防止(2)
8	養育者としての母親の存在
9	親としての力
10	子育ての力を高める
11	親としての発達
12	子育て相談の実際
13	グループ発表(1)
14	グループ発表(2)
15	まとめ

評価

日常点(課題提出・小テスト・授業態度・発表など)40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】初回授業時に指示します。

科目名	ライフサイクル論		
担当教員名	塩谷 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

人の一生をライフサイクルととらえ、その歩みを生涯発達の視点からみてゆく。エリクソンのライフサイクルの理論を援用して、それぞれの段階の課題と危機について学び、一生の歩みを理解すると共に、危機への対処方法について考えることを目的とする。また、本講座を通じて、女性にとってのライフサイクルについても考察する機会としたい。

内容

講義方針：授業の前半を講義形式で、後半は具体的事例についてグループで話し合い、討論結果を発表するなどして理解を深める。

授業計画

- 第1回 授業の進め方について、ライフサイクル論とは
- 第2回 ライフサイクルの諸理論
- 第3回 乳児期～幼児前期
- 第4回 幼児後期～就学まで
- 第5回 児童期前期(小学1～3年生)
- 第6回 児童期後期(小学4～6年生)
- 第7回 思春期前期(中学生)
- 第8回 思春期後期(高校生)
- 第9回 青年期前期(大学生)
- 第10回 青年期後期(学生と社会人の間)
- 第11回 成人期 社会人として
- 第12回 成人期(社会人・家庭人として)
- 第13回 中年期(壮年期)
- 第14回 老年期
- 第15回 ライフサイクルとその後、まとめ

評価

受講態度、発表内容、テスト・レポートを評価の対象とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】馬場禮子・永井徹共編 『ライフサイクルの臨床心理学』 培風館 2004(初版第13刷)

科目名	精神保健概論		
担当教員名	藤井 靖		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

カウンセリングや心理療法の技術の習得、あるいは臨床現場でのフィールドワークの前提となる、精神保健に関する一般的な知識を得ることを目的とします。

科目の概要

現代の学校現場においては、不登校やいじめをはじめとして、虐待、非行、さらには精神疾患、心身症など、非常に多岐に渡る問題を孕んでいます。本講義では、子どもと関わる者にとって重要なトピックである、子どもの心身に起こりうる問題のメカニズムとその対処について検討していきます。

学修目標

精神保健の定義や対象について縦断的および横断的に理解する。

子どもの心身に起こる問題と対処について、基礎的知識を身につける。

ストレス理論等、メンタルヘルスに関連する諸理論についての知識を得る。

精神保健に関連する法規や施設について理解を深める。

授業で学んだ内容について、問題意識や自分なりの意見を持ち、表現する。

内容

1	受講ガイダンス、精神保健とは
2	精神保健の対象、歴史、現状
3	胎児期、乳幼児期の発達と心理
4	幼児期、学童期の発達と心理
5	思春期の発達と心理
6	学校と家庭・地域・関係機関との連携
7	青年期、成人期、老年期に起こりうる問題
8	不登校・問題行動と対処の実際
9	心身症と対処の実際
10	精神疾患と対処の実際
11	虐待と対処の実際
12	発達障害と支援の方法
13	関連法規・施策と施設(1)
14	関連法規・施策と施設(2)
15	まとめ

評価

学修目標に関する試験(30点)、レポート(50点)、授業態度(20点)により評価を行い、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書・テキスト】使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【推薦書・参考図書】授業の中で適宜紹介します。

科目名	幼児期の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.科目の性格：本科目は、これまで学んできた発達心理学や学習心理学などの知見を踏まえ、乳幼児期に焦点を当て、発達の特徴に応じた支援を行うための科目です。
- 2.科目の目標：乳幼児期における、認知、社会性などの諸側面の発達課題について理解することをまず目指します。そのうえで各発達の課題が達成されなかった場合、どのような問題が表れ易いか、そのような問題を未然に防ぎ、発達を支援するには、どのようなことが必要かを学びます。発達の問題に対する見解については、さまざまな立場があるため、立場の相違によって支援方法にどのような違いが生じるかに関しても、考えていく予定です。
- 3.学修目標：
 - (1)乳幼児期における認知、社会性、コミュニケーション等の発達課題についての理解。
 - (2)発達課題が達成されなかった場合に表れやすい問題の理解。
 - (3)発達の支援に関する理解。

内容

1	発達とは・発達の課題とは
2	発達の基礎理論 (1)
3	発達の基礎理論 (2)
4	発達の基礎理論 (3)
5	胎生期～周産期の心理臨床
6	新生児期の心理臨床
7	乳児期の心理臨床
8	幼児期の心理臨床 (1)
9	幼児期の心理臨床 (2)
10	中間まとめ
11	発達の支援 (1)
12	発達の支援 (2)
13	グループ発表(1)
14	グループ発表(2)
15	まとめ

評価

授業への参加度(課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度・発表など)40%と、期末テスト(100点満点)の成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが60点に満たない場合は、不合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回授業時に指示します。

科目名	児童期の心理臨床		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

児童期における精神面の発達上の問題（問題行動や不適応、精神的疾患など）について、その種類と特徴、原因、教育・治療的支援など幅広い性格をもつ。

科目の概要

児童期の心理臨床とは、主に心理的な要因によって問題行動や症状を出している子どもやその家族に対して、専門的な知識をもちかつ訓練を受けた者が関わりを重視しつつ行う支援活動のことである。

学修目標

幼児期から思春期が始まるまでの子どもたちが直面するさまざまな心理的問題の理解とその対応について、たとえば、発達障害やいじめ問題、不登校等の問題について、児童期における事例を通してその知識と理解を深める。

内容

1	児童期における問題行動と精神的疾患の種類、行動問題の規定要因
2	問題と症状からみた子ども理解（病因論を中心とした問題の理解、自閉症を例として）（1）
3	問題と症状からみた子ども理解（DSMを中心にした子どもの問題）（2）
4	不登校問題（1）～発生メカニズムと規定要因等について集団討論
5	不登校問題（2）～予防対策、治療的対応（カウンセリング）について集団討論
6	不登校問題（3）～解決策について集団討論と発表
7	不登校問題（4）～まとめ（対応策、保健室の位置と役割、保健室登校）
8	いじめ問題（1）～いじめの定義、いじめの動機と規定要因について集団討論
9	いじめ問題（2）～今日のいじめの特質、いじめの指導と対策について集団討論
10	いじめ問題（4）～いじめの指導と対策（指導体制、個別的指導法）発表
11	いじめ問題（3）～いじめの指導と対策についてのまとめ
12	事例研究（1）～子どもの表現する心的世界と現実（箱庭療法）
13	事例研究（2）～プレイセラピーを通して基本的な信頼関係を築く
14	事例研究（3）～アスペルガー障害と考えられる子どもとのかかわり
15	まとめ

評価

授業に取り組む姿勢や態度と課題（30%）、筆記試験（70%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する

科目名	青年期の心理臨床		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目である。1年次に必修科目となっている「臨床心理学概論」や「発達心理学概論」、生涯発達領域の「青年期の心理学」などとも関連が強い。

科目の概要

青年期に生じやすい心の問題を発達のつまずきという視点からとらえ、理解を深めていく。具体的事例をもとにしながら、それぞれのテーマとなる問題の背景や現状を把握し、社会、地域、学校、家庭に求められる対応のあり方、予防法などを取り上げる。

学修目標

- ・青年期に生じやすい心の問題への知識及び対応方法を学ぶ。
- ・青年期にある受講生の精神的健康度を高めるための予防的な対処法を学ぶ。

内容

1	青年期の発達理論～自分のこれまでを振り返る～
2	青年期の発達理論～友人から見た自分とは～
3	「キレル」とは
4	「キレル」への対応
5	摂食障害とは
6	摂食障害への対応
7	ひきこもりとは
8	ひきこもりへの対応
9	自殺の現状
10	自殺予防・対策
11	薬物依存とは
12	薬物依存への対応
13	パーソナリティ障害
14	青年期の心理臨床の総括
15	まとめ・解説

評価

レポート(20点)と期末試験(80点)により評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に定めない。推薦書などは適宜授業中に紹介する。

科目名	中高年期の心理臨床		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格

本科目は、前期開講の必修科目「中高年期の心理学」で得た現実への認識を前提に、実際に生きている人のナマの声を聴きながら、それを手掛かりに、中高年期への、より深い理解を目指し開講する。

2. 科目の概要

世界中で起きているさまざまな現実のひずみに関し、人は、自らの心の平穏を保つために「あえて見ないようにする」ことがある。また、仮に自分の目に入っても、自分の耳に聴こえてきても、「他者がそのような状況にあるのは分かったけれど、自分は体験したことがないので、リアルに感じられないから」と理由をつけて、気にかけてない・働きかけてない・自分に来ることをしないとといったことをすることがある。本科目は、このような前提にたち、中高年期の諸課題を、他者の「語り」を通して、実感的に理解を進める方途とスキルを獲得することを目的とする。

3. 学修目標

本科目は、「体験してないから分からない」という論理構成の中にいる自分に気づき、その上で、世界中の中高年の現実に対し、一人の市民として、自らが貢献し得る知識と技術とは何かを考え、それを習得することを学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、まず、題材に関するグループワークの形式により行う。次に、グループワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、各開講回別に取り上げる題材の内容は以下の通りとする。

学習題材としての「社会問題」は、1) 世界中の女性への差別や搾取(第1週～第4週)、2) 中高年期の性同一性障害(第5週～第7週)、3) 中高年期のセクシャリティと児童買春(第8週～第9週)、4) カルト宗教と中高年(第10週～第12週)、5) 世界中で起きている戦争や内戦と中高年期の保守性(第13週～第14週)などを取り上げる。

なお、本科目の特徴として、「現実を実感する」題材提供を、2つの立場の「生きた人々のナマの声」を用いる方法により行う予定である。具体的には、1) 中年期に難病に苦しみながら生き生きと暮らす中年女性のお話を聴く機会と、2) ハンセン病療養所へのスタディツアーを、題材提供の計画に含んでいる。

第1に、『中年期に難病を発症し今も病氣と闘いながら生きている中年期の女性』のお話は、「全身性エリトマトーデス」という難病を患いながら、中年期を充実して生きていらっしゃる女性の方に来学いただき、直接「女性が中高年期を生きること」というテーマで、お話を聴かせていただく。

第2に、『ハンセン病療養所・多磨全生園』へスタディツアーに行き、高齢期にあるハンセン病回復者に直接お会いしお話を聴く、日帰りの訪問を行う。

また、第15週目の開講日には、本科目の「まとめ」として、それまでの学習内容のポイント・キーワードを確認した上で、講義時間内に「期末レポート（小論文テスト）」の作成を課す。

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『グループワークへの取り組み姿勢』と、それを前提とした毎回の小レポート（講義内容への習熟を測る小論文）の内容を指す。併せて、講義最終回に、期末レポートとして、小論文の作成を求める。

成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(グループ学習への取り組み状況や毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート(最終講義回に実施する小論文テスト)』が30点、の構成にて配点し、それを基準として評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

「Days Japan 2007年11月号（特集：食べもの人間）」

「Days Japan 2007年3月号（特集：写真版 世界がもし100人の村だったら）」

「Days Japan 2006年12月号（特集：最底辺の子どもたち）」

「Days Japan 2006年2月号（特集：貧困）」

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

- 1.科目の性格：障害のある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。
- 2.科目の概要：各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。
- 3.学修目標：
 - (1)障害の理解。
 - (2)各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
 - (3)上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

内容

1	障害とは
2	自閉症 ^h ・外 ^h 障害者の心理学的特徴と支援（1）
3	自閉症 ^h ・外 ^h 障害者の心理学的特徴と支援（2）
4	学習障害者の心理学的特徴と支援
5	注意欠陥/多動性障害者の心理学的特徴と支援
6	知的障害者の心理学的特徴と支援
7	視覚障害者・聴覚障害者の心理学的特徴と支援
8	言語障害者の心理学的特徴と支援
9	肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
10	精神障害者の心理学的特徴と支援
11	各障害者の心理学的特徴と支援のまとめ
12	さまざまな立場の支援の方法
13	グループ発表（1）
14	グループ発表（2）
15	まとめ

評価

授業への参加度（課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度・発表など）40%と、期末テスト(100点満点)の成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが60点に満たない場合は、不合格とします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回授業時に指示します。

科目名	障害者の発達支援		
担当教員名	新井 豊吉		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状/認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

発達心理学科の教育・保健領域の科目である。近年、学校現場で生じているさまざまな現象や発達と教育に関わる心理学的課題を抱える児童生徒に対して、教育相談に必要な基本的な知見を獲得する。また、実際どのように活動していくのかについて学ぶ。

教職過程科目の「教育相談」と同時開講とする。

【科目の概要】

教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

また、学校現場において、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

【学修目標】

教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	教育相談の歴史と今日的課題
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応 不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応 いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応 発達障害
11	児童生徒の行動の理解と対応 非行
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大芦 治「教育相談・学校精神保健の基礎知識 第2版」ナカニシヤ出版 2008

【推薦書】岡田守弘監修 「教師のための学校教育相談学」ナカニシヤ出版 2008

有村久春著「キーワードで学ぶ 特別活動・生徒指導・教育相談」金子書房 2009

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	心理療法		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

学科専門科目の心理臨床科目の科目で、臨床心理学の基礎を既に学んだ者を対象とする。

心理臨床にたにたずさわる者として、理解しておくことが望まれる理論がいくつかある。そこで、本科目ではそれらのうち代表的な理論をいくつか取り上げ、基礎知識を習得することをねらいとする。

【科目の概要】

心理療法の歴史をひもとき、どのようにして現在のような心理療法が誕生してきたかを探る。また、それぞれの心理療法の特徴について紹介する。

【学修目標】

心理療法の主たる理論について理解する。心理臨床に関する各理論について学びを深め、日常生活の中でカウンセリング・マインドの実践ができるようになることを目標とする。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

注意 本講義は、意見交換・発表など参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	はじめに～心理療法の歴史
2	ロジャース派
3	精神分析 フロイトとその後継者たち
4	ユング派
5	行動療法
6	家族療法学派
7	遊戯療法
8	箱庭療法
9	認知療法
10	認知行動療法
11	催眠療法、自律訓練法
12	アドラー心理学
13	ゲシュタルト療法
14	内観療法
15	ブリーフ・セラピー

評価

授業中の参加態度や提出物35%、最終発表内容65%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、レポートを課す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】乾吉佑他編 『心理療法ハンドブック』 創元社 2005

科目名	発達臨床フィールドワーク		
担当教員名	綿井 雅康、伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知見を基礎として、「心理学」が社会のさまざまな場で、どのように役立っているのかを具体的に理解する科目である。

科目の概要

いくつかの臨床現場（医療・保健の施設や機関、学校教育および関連する施設や期間、社会福祉関連の施設や期間）に向いて見学させていただくとともに、現場で従事されている専門家の方からのお話をうかがう。事前のガイダンスと事後のまとめを見学ごとに行う。

学修目標

知識として学んできた発達心理学や臨床心理学などが現場でどう生きているか、現場で「心理学を活かすことに」どんな難しさがあるのか等、発達臨床に対する理解を深める。さらに、受講生が自分の将来の道を考える上での「心理学を活かす」という視点を実質化することを目指す。

内容

1. 現場（医療・保健関連、学校教育関連、社会福祉関連の施設や機関を予定）への見学等が学習活動に含まれます。
2. 現場見学にあたっては、事前のガイダンスを実施します、事後のまとめを実施します、見学にかかる経費（交通費など）は受講生の自己負担となります。
3. 見学を実施する時期は、通常の授業が行われない日程となります（例えば集中講義期間、春期休業期間）。
4. 現場見学を行うために、受講生の人数（上限）を設定します。
5. 見学先、時期、受講制限などについては、学科オリエンテーションにて説明します。

評価

見学ごとのレポート（100点）にて評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学」ミネルヴァ書房 2005

科目名	人間発達演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通して、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	鶴木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジюмеにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジюмеに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動(レジュメに基づく口頭発表、研究実習など)および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	発達心理学外書講読		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

英文で発達心理学および発達臨床心理学の文献を読む。人の発達はその人の育つ社会や文化と切り離せない。世界中で研究されている発達心理学は国によっていろいろな発達の様相を示しているが、日本語で読めるのはそのごく一部である。英語で文献を読むことによって、世界の文化のなかの多様な人の発達の姿を見ることができる。大学院進学者の受験対策も兼ねているので、大学院進学を考えている学生には受講をすすめる。

学修目標

- ・英語文献を効率的に読むことができる
- ・英語文献の要点を読みとることができる
- ・英語文献の内容を理解しまとめることができる
- ・英語文献を読むことを通し、様々な文化の中での発達の様子を知る

内容

15回の授業を通して、発達心理学と臨床心理学に関係した文献を読む。文献は担当者が用意する。

- ・発達心理学の歴史上重要でよく知られている研究についてやさしく書かれた文を読む。
- ・臨床心理学のなかで受講学生の興味に従って文献を選び、読む。

評価

平常点50点、レポート50点。合格点60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に指定する。

科目名	データ解析法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

統計解析ソフトSPSSを使った実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につけ、同時にSPSSの使用法もマスターすることを目標とする。また統計解析専門ソフトの特性をいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。履修にあたっては統計の基礎知識が必要とされるので、心理統計法、心理学情報処理法などの科目を単位取得済みであることが必要である。またPC実習室を使用するため、受講者数の上限を50名とする。希望者多数の場合は初回の授業で選考を行うので必ず出席すること。

内容

SPSSを使って以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータ(内容未定)の集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約(平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計(単純集計、クロス集計)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定(2 検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定(t 検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析(因子分析)

評価

期末レポート50点+中間テスト30点+授業内の課題20点により評価を行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配付する。

科目名	心理学実験実習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

心理実験に関わる一通りの過程を実習する。

すなわち，1)仮説をたて，2)実験を計画し，3)データを取り，4)データを解析し，5)報告書にまとめ，6)口頭でも報告する。

これらは卒業研究の作成に必要な基礎知識でもある。

各自が卒業研究のテーマを見つけるきっかけにしたい。

科目の概要

5週を単位に3種類の実験を行う。

それぞれについて仮説をたて，データを取り，統計解析して，結果を報告書にまとめる。

学修目標

目標とするのは，1)心理学的な問題設定の能力，2)素データを見抜く眼力，3)統計手法を用いたデータの吟味，そして4)文章作成能力の涵養である。

これらを通じて人間の心の不思議な働きや，心理学実験の面白さを実感する。

内容

予定する実験内容は以下の3つである。それぞれを5週間かけて実習する。

- 1) PCによる実験その1：心的回転課題と方向オンチとの関係
～ 処理負荷の指標としての反応時間，平均値と中央値，JavaSTARを使った分散分析の実習，レポート作成
- 2) PCによる実験その2：40語のスワヒリ語を暗記する最も効果的な方法
～ 仮説の設定，実験計画，JavaSTARを使った分散分析の実習，レポート作成
- 3) 紙と鉛筆を使った実験：急速反復書字課題による書字スリップ（手続き記憶の収納方法）
～ 仮説の設定，実験計画，JavaSTARを使ったt検定の実習，レポート作成，口頭発表

より密度の濃い授業にすべく，また機材の数も勘案して受講人数の上限を設定する可能性がある。希望者多数の場合，初回授業で抽選を行うので，受講希望者は初回の授業に遅刻せずに出席すること。やる気のある学生の受講を望みます。

5週を単位として一つの実験に取り組む。レポートの添削にも時間を割く予定なので，各課題のレポート提出は必須である。

。

評価

毎回の授業で，簡単なエッセイを課す。これに加えレポート3本，実習班ごとの口頭発表1回が課題となる。毎週必ず出席し，レポートは全て期限内に提出すること。エッセイ60%，レポート30%，口頭発表10%を評価の対象とし，総合60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書】木下是雄 「レポートの組み立て方」 ちくま学芸文庫

客観的な報告書をまとめる際の基本が平易に書かれています。作文技術は社会に出ても必要になってきます。いつも手元において、分かりやすく、伝わる文章を書く技術を磨いていきましょう。

科目名	社会調査法実習		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習は、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、それを習得することを目指す。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても学習する。なお、データの分析にPC実習室を利用するため、受験者数の上限を50名とする。希望者多数の場合は、初回の授業で先行を行なうので、必ず出席すること。

内容

調査法に関する講義と小グループに分かれての実習を並行して行なう。実習は、（1）調査テーマに関わる心理特性を測定する心理尺度項目を作成する調査と（2）グループで作成した心理尺度項目を用いて仮説を検証するための調査の2つを行なう。いずれもグループごとにテーマを決め、尺度項目、調査用紙を作成し、授業内で調査を実施する予定である。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定と心理尺度項目の作成
4. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
5. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成
6. 心理尺度項目に関する調査の実施
7. 尺度の信頼性・妥当性の検討、項目分析の方法
8. 心理尺度項目の校正
9. 報告書の作成
10. 心理尺度項目を用いた仮説の設定
11. 仮説検証のための調査用紙の作成
12. データの分析（度数分布、相関分析）
13. データの分析（平均値の比較、クロス集計など）
14. 報告書の作成
15. まとめ

評価

2つのレポート課題50点×2=100点により評価を行い、60点以上を合格とする。実習形式なので出席は重要である。特に、グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

鎌原雅彦他 1998 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

科目名	行動観察法実習		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つである。心理学では、行動観察法は人の行動の意味、人と人の関係、発達の過程その他を知るために、多くの領域で使われる。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできない。この技法を学び実習する。授業や卒論にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指す。

学修目標

- ・観察法の種類とそれぞれの技法について説明できる
- ・観察法の各技法を用いて行動観察ができる
- ・グループでの観察を計画し、結果の報告ができる

内容

情報処理室でDVD映像を使つての実習、および実地観察を行う。

- ・映像を用いた実習
- ・グループで実地観察・発表
- ・期末レポート用行動観察

評価

各実習のレポート(60%)、期末レポート(30%)、平常点(10%)。合格点は100点換算で60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[推薦書] 中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

科目名	行動観察法実習		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つである。心理学では、行動観察法は人の行動の意味、人と人の関係、発達の過程その他を知るために、多くの領域で使われる。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできない。この技法を学び実習する。授業や卒論にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指す。

学修目標

- ・観察法の種類とそれぞれの技法について説明できる
- ・観察法の各技法を用いて行動観察ができる
- ・グループでの観察を計画し、結果の報告ができる

内容

情報処理室でDVD映像を使つての実習、および実地観察を行う。

- ・映像を用いた実習
- ・グループで実地観察・発表
- ・期末レポート用行動観察

評価

各実習のレポート(60%)、期末レポート(30%)、平常点(10%)。合格点は100点換算で60点。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[推薦書] 中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

科目名	心理療法演習		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.科目の概要：心理臨床場面で実際におこなわれている事例についておおまかに把握することをめざす。
- 2.科目の概要： 相談のやりかたと、 相談の内容やテーマに分けて考える。 については心理療法で習得した技法の理解と、カウンセリング基礎 ， で習得した実践的習熟を基に展開させていく。また、食の心理学で学んだ女性の身体の仕組みから、カウンセラー自身の自己理解について理解する。 については幼児期の心理臨床や母子関係論などから得られる知識を含めて、問題となっているテーマについて、多面的な理解をしていく。
- 3.学修目標：以上の点を考慮しながら、テキストの実践例に習ってロール・プレイで表現できるようになることをめざす。

内容

1. 言語的援助の技法
2. 非言語的援助の技法
3. 自己理解を深める
4. 事例に学ぶ援助の実際
 - 子育て不安 主訴と問題の所在
5. 虐待 介入と受容
6. 職場への不適応 不安をうけとめることと解釈
7. 不登校 思春期の表現を理解する
8. 非行 行動の意味を理解する
9. 人格障害 共感できない事例
10. 摂食障害 拒否的態度への対応
11. 不定愁訴 聴くことの意味
12. 自閉症 相手と世界を共有する
13. 発達障害児の親面接 支持することと援助
14. 育児困難 地域との連携
15. 精神病 アセスメントと他機関への紹介

評価

実習点(50点)と期末レポート(30点)と平常点(20点)で評価する。
合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子著 『これからの心の援助』 ナカニシヤ出版 2001

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

人間発達心理学科の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション（要請承諾・説得）
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

評価

授業内の小課題20点、期末テスト80点、の計100点満点により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	対人社会心理学		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会心理学の中でも、特に他者との関係や相互作用に注目した科目である。

科目の概要

恋愛関係を主とする親密な関係の構造と進展(講義1,2,3,4,5,6)

人の話を上手に「聴く」方法(講義7,8)

自己の要請を受け入れさせたり、他者の態度を変容させる手法(講義9,10,11)

他者に対する攻撃や援助に影響する要因(講義12,13,14)

学修目標

現実場面で役立つような社会心理学の知識を身につけることを学修目標とする

- ・親密な他者の関係を客観的に見られるようにする
- ・他者とのコミュニケーションについての知識を身につける
- ・要請受諾や説得のメカニズムを理解する
- ・攻撃や援助に影響する要因を理解する

内容

1	親密な関係とは何か
2	恋愛関係の構造
3	恋愛関係の発展
4	親密な関係の葛藤
5	親密な関係の崩壊
6	親密な関係の喪失
7	ソーシャルスキル：話を聴く
8	ソーシャルスキル：非言語的コミュニケーション
9	要請受諾
10	説得
11	洗脳とマインドコントロール
12	攻撃
13	援助
14	ソーシャルサポート
15	まとめ

評価

各テーマごとの課題(40%)、試験(50%)、通常の授業態度(10%)

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する

【推薦書】セレクション社会心理学 サイエンス社

不思議現象 なぜ信じるのか 北大路書房

対人社会心理学 重要研究集 誠信書房

科目名	人間関係の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。 本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的研究に基づいて、人間関係の形成、進展について理解することを目標とする。また受講を通じて、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけとなることを目指す。

内容

1	ガイダンス
2	対人魅力とは何か
3	好意をいかにして測るか
4	好まれる性格
5	外見の美しさの効果
6	美しさの判断
7	自分と似ていることの効果
8	環境条件と魅力
9	相手から好かれることの効果
10	個人の内的状況
11	自己開示と好意
12	対人魅力と対人関係
13	対人関係の親密化
14	対人関係の進展・崩壊
15	まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に達しない場合再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。受講を通して、集団における人間の心理について理解を深めるとともに、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	家族心理学		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

現在、日本の家族は少子化、高齢化、虐待、不登校、ホームレス、孤独死などなど多くの問題を抱えている。このような問題に対して、家族はどう立ち向かっていけばいいのだろうか。

家族は一定のルールのもとで相互作用や日常行動を行っている。家族は人間関係の家族システムであるともいえる。

一方個人が主体となる個人心理学的観点からすると、個人は家族システムのなかではどのように変容していくのであろうか、また、変容せざるをえないのだろうか。

現代家族の抱えている問題を明らかにし、次に家族システム論について考え、さらに個人心理学について説明する。最後に家族システム論と個人心理学とを融合させて新しい家族心理学を提示していくことなどを目的とする。

内容

1. 家族心理学の役割
2. 家族人生周期
3. 家族システム論
4. 家族内コミュニケーション
5. 家族関係の心理査定
6. 家族心理の深層構造
7. 社会の中の家族
8. 個人の中の家族イメージ
9. 家族療法の理論
10. 家族療法の技法
11. 家族療法の技法
12. 家族療法の技法
13. 夫婦療法の理論と技法
14. 家族療法の実際
15. 家族心理学の未来

評価

授業中の小レポートを30点、期末のレポートを70点。以上の合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書

亀口憲治 （20110）

改訂新版 家族心理学と特論

放送大学教育振興会

科目名	産業心理学		
担当教員名	道谷 里英		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

社会人のメンタルヘルスに関する内容であるため「健康心理学」や「インターンシップ」と関連性が高い。

科目の概要

産業領域でのメンタルヘルス・マネジメントの役割をテーマとする。社会で働く際に、どのようなことに気をつければ、こころのバランスを崩さずに、自分らしく生きていけるのかといった予防的内容も含む。またメンタルヘルスに不調を生じた人がいた場合に、どのような理解や関わりができるかといったことも学ぶ。受講生のうち希望者は、「メンタルヘルス・マネジメント検定 種」を受検することができる。

学修目標

- ・ストレスが心身に及ぼす影響を理解する。
- ・社会人が体験するストレス、及びストレス・マネジメントの重要性や方略を学ぶ。
- ・希望者は、メンタルヘルス・マネジメント検定 種の合格を目指す。

内容

1	メンタルヘルスケアの意義
2	メンタルヘルスケアの方針と計画
3	ストレスの基礎知識
4	メンタルヘルスの基礎知識
5	心の健康問題の正しい態度
6	セルフケアの重要性
7	ストレスへの気づき方
8	ストレスへの対処、軽減の方法
9	自発的な相談の有用性
10	活用できる資源
11	専門的相談機関の知識
12	メンタルヘルス・マネジメントの復習（過去の検定試験と解説）
13	メンタルヘルス・マネジメントの復習（過去の検定試験と解説）
14	メンタルヘルス・マネジメントの復習（過去の検定試験と解説）
15	まとめ

評価

レポート（20点）と期末試験（80点）を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大阪商工会議所編 「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース」 中央
経済社

科目名	認知心理学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

1年次の専門必修科目を学習したことを前提として、人間のあらゆる行動や活動の前提であり基礎となる認知機能について学ぶ。本科目での学習は、それ以降に学ぶ専門科目の学習や卒業研究の活動に役立つものである。

科目の概要

私たちの認知機能を心理学的アプローチから理解することを目的とする。認知機能の一例をあげるなら、携帯電話のメールを読むとき、私たちは、日本語に関する文法的な知識、語句の意味に関する知識、身の回りの「世界」についての常識的な知識、送信相手に関する知識や状態の推測などの広範かつ膨大な知識を、自動的かつ瞬時のうちに呼び出しているはずである。

本科目では、観察不可能な認知機能の活動プロセスを、心理学的なモデルや理論を通して理解する考え方に慣れるとともに、講義を通して得た専門的知識や科学的な視点を、日常生活での何気ない知的活動に対する客観的で分析的な理解に活用する態度の育成につなげることを目指す。

学修目標

評価基準となる学習到達目標は、1) 認知心理学の基礎となるモデル・理論について、日常的な行動との対応を説明できるか、2) 実証的な研究の方法やデータを理解できるかである。

内容

- 01．ガイダンス
- 02．認知の神経的基盤
- 03．視覚の神経的基盤
- 04．視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
- 05．視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
- 06．認知心理学研究法
- 07．注意
- 08．記憶と学習 - 記憶の構造と理論
- 09．記憶と学習 - 記憶プロセス
- 10．知識表現 - 意味ベースの知識表現
- 11．知識表現 - 知覚ベースの知識表現
- 12．推論 - 演繹的推論
- 13．推論 - 帰納的推論
- 14．思考と問題解決
- 15．総括

評価

授業内小課題30点、筆記試験課題70点の計100点で評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書・参考書は、授業開始前および授業時に適宜紹介する。

科目名	性格心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士(心理学科)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

人間発達心理学科における生活科目領域の科目で、初学者を対象としている。人間理解の基礎となるパーソナリティーへの理解を深める。

【科目の概要】

なぜ人には「性格」というものがあり、それはどのようなことに影響され、どのように形成されるのか、自分のあるいは他人の性格を変えることはできないか、などといった事柄について学んでいく。具体的には、まず類型論と特性論による性格理論を概観すると同時に、遺伝と性格との関係、環境や文化と性格との関係など性格心理学の基本的な理論について学んでいく。

【学修目標】

性格に関する諸理論や性格が形成される過程について学び、自分および他者に対する理解を深めることで心理学的な基礎知識を身につける。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	性格とは何か? ~ イントロダクション
2	性格の見分け方 ~ 類型論
3	性格の見分け方 ~ 特性論
4	性格はどうやって決まる? ~ 遺伝と性格
5	性格の違いはどこからくる? ~ 家族と性格
6	性格の違いはどこからくる? ~ 兄弟と性格
7	中間まとめ
8	性格の違いはどこからくる? ~ 環境/文化と性格
9	性格は変えられる? ~ ライフサイクルと性格
10	性格は変えられる? ~ 地位/役割と性格
11	性格は変えられる? ~ 適応/不適応と性格
12	好かれる性格, 困った性格とは?
13	病気になりやすい性格とは?
14	性格心理アセスメント ~ 性格をどのように測定するか?
15	総合まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】清水弘司著 『はじめてふれる性格心理学』 サイエンス社 1998

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	食の心理学		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.科目の性格：発達相談において、子どもの食の問題を考えていくことが重要である。また、女性のカウンセリングにおいては、産む性を引き受けている女性の心理を食行動の面から理解することも重要である。それらに加えて、食を通じた人と人との関係の発展を理解していく。
- 2.科目の概要：現代は文化や文明が発達し、その恩恵を受けて日常生活が展開されている。しかし、女性の生理学的な問題についての理解は十分なされないまま生活していることが多い。そのため、問題行動をすべて、メンタルな問題にしてしまうことがよくある。メンタルな問題の発生を日常の食行動に起源をもとめることができるかもしれない。このようにして、心理学を日常の生活や行動と結びつけてみる時、最も身近に取り上げられるのが、食事の問題である。この授業では、さまざまな観点から、食事と人びとの心の関係を探求していく。
- 3.学修目標：自分の生理について理解し、食生活が健全に行われるようになること。また、産む性を引き受けていくための食生活についても理解すること。

内容

1. 基礎体温と食事について。
2. 女性の生殖と飲食の関係
3. 飲食のメカニズム
4. 心理テストにあらわれる基礎体温の影響。
5. (1) バウム テスト
6. (2) パーソナリティ インベントリー
7. (3) YGテスト
8. (4) PFスタディ
9. 個人差と体質
10. 食事を作る人と食べる人(例：母と子)の関係を探る。
11. (1) 自我を育てる食事
12. (2) 思春期の食事
13. (3) 共食の意味
14. 社会や文化が人間の食事や健康意識に及ぼす影響
15. まとめ

評価

授業中の小レポートなど平常点30点,期末のレポート70点で評価する。

合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

今田純雄 2008 食べることの心理学 有斐閣

- 【推薦書】A.W. ローグ 木村定訳 『食の心理学』 青土社 【所蔵無】
二木 武他編 『小児の発達栄養行動』 医歯薬出版 493.91/S
D. ラプトン 武藤隆他訳 『食べることの社会学』 【所蔵無】

科目名	身体運動の心理学		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

心理学科の選択科目である。

心や意識，記憶や性格は箱に入って固定されている訳ではなく，

身体運動による環境との相互作用から立ち上がるダイナミックな現象であることを感じ取ってほしい。

「こころだって，からだ」なのである。

科目の概要

毎週1つのトピックについて，実習を交えながら講義を進める。

毎回，授業後に短いエッセイの提出を求める。

次の授業では優れたエッセイを紹介し，復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

身体と心，脳に関する話題を概観しながら，人間を観る眼をより柔軟にしたい。

心について深く考えるには，身体運動の基礎知識が不可欠である。

1)身体が動く仕組み（筋骨格系から脳までの機能と構造），2)運動制御と運動学習の仕組み，3)身体運動と心理学との関わりを学び，改めて人間を見直し，心の多様さについて考える。

内容

進度に応じて新たな話題を盛り込むが，昨年度の授業内容とキーワードは以下の通り：

- 1.イントロダクション（心と身体と環境とは「くっついて」いる。心のくっつける働きと分ける働き）
- 2.骨の構造と筋肉の動き：筋肉のつき方，股関節の理解，二足歩行の進化学
- 3.力を発揮する仕組み：腕ずもう必勝法，外力と反射，腱
- 4.カロリーの出し入れと動的平衡：カロリーの摂取と消費。分子生物学からみた「生きる」こと
- 5.脳構造のイロハ：BrainVoyager Tutorを用いた脳構造の理解，脳の階層性，脳部位の概略，神経細胞
- 6.脳の処理過程を楊枝で実習する：ニューラルネットでおやつ代計算
- 7.脳の感覚運動系：運動野の階層，運動・感覚ホムンクルス
- 8.環境とやり取りする脳：遠心コピー（自分でくすぐってもくすぐたくないのはなぜ？）
- 9.気分・性格と運動：POMSで気分を測定，性格の特性論によるスポーツ参加者の分類，社会的学習理論
- 10.運動と動機づけ：外発的vs内発的動機づけ，帰属と再帰属訓練（やる気とその維持）
- 11.運動と記憶：記憶の分類，文脈干渉効果，記憶の定着過程（記憶が染み込むには時間がかかります）
- 12.運動学習入門：運動学習の過程（「わかる」と「できる」は違うのです），フィードバックと汎化
- 13.運動の発達：PHV年齢と最適な運動内容。幼児の運動能力と運動指導
- 14.ブランコ漕ぎの自由：振り子の等時性，ブランコは漕いでるようで漕がされている？
- 15.まとめ

純粋な講義でなく，簡単な実験や演習を折り込みながら授業を進める。各講義の後に簡単なエッセイを課すので，講義内容について積極的に考え，自分なりの考えをまとめることを求める。優れたエッセイは次回授業で紹介し，討議の材料にする。

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし，合計で60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

ジャービス著，工藤和俊・平田智秋訳「スポーツ心理学入門」新曜社

その他の推薦図書については，授業の中で随時紹介する

科目名	健康心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

健康心理学は、他の心理学から独立した雰囲気を持っています。しかし、「基礎心理学（学習理論）」を活用する点では他の応用心理学と変わりません。「臨床心理学」と同様の病を扱いながら違う手法を用いる点に注目してください。

科目の概要：

「健康心理学とは健康の維持・増進、疾病の予防・治療、健康・疾病・機能不全に関する原因・診断の究明、およびヘルスケア・システム（健康管理組織）・健康政策策定の分析と改善に対する心理学領域の特定の教育的・科学的・専門的貢献のすべてをいう」、この一読すると難解で複雑でと感じる学問は、一方では「ポジティブ心理学」と呼ばれます。「人のこのような悪い部分がうつ病を招く」ではなく「人はこのような良い部分があるからうつ病を防げる」という考え方が特徴です。

学修目標：

- 1) 「人は、潜在能力・治癒力・成長力があると信じる」という立場を理解する。
- 2) 上記1)を踏まえ、人の心身に隠れている素敵な部分を活かしてより良い存在へ成長させていく方法を習得する。
- 3) 日常生活の中で健康心理学を活かし、自他が抱える様々な難関・苦難をクリアできるようなポイントを見いだせる。

内容

講義は「健康心理学」という興味深い学問を初めて学ぶことになる皆さんに習得してもらうため、まず基礎的な考え方や理論を学んで貰います。その後、講義が深まるうちに「健康心理学」らしい非常に実践的な技法を学びます。

この内容は、学びが深まるにつれて理論と技術を一体に学ぶことができるようになっていきます。そんな風に講義が一連になっていますので、可能な限り全ての回に出席して下さい。

1	はじめに	オリエンテーション
2	健康心理学の意義	健康心理学という存在を考える
3	健康心理学の基礎理論	健康心理学を支える科学的な理論
4	健康心理学の各論	ストレスについて考える
5	健康心理学の各論	ストレスを科学する
6	健康心理学の各論	人格（性格）の理解を深める
7	健康心理学の各論	人格（性格）と健康の関係を考える
8	健康心理学の各論	ライフサイクルとライフスタイル
9	病気を考える	生活習慣病
10	病気を考える	心身症
11	健康を考える	予防
12	健康を考える	予防と促進
13	健康心理学の技法	心理アセスメント（人の健康を把握・理解する方法）
14	健康心理学の技法	心理的サポート（人の健康を支える・改善する方法）
15	おわりに	まとめ

評価

講義最終回に行われる“最終評価（筆記試験orレポート）”を評価の中心とします。

講義内容に応じて、重要な局面で“受講レポート”を提出して貰います。これも評価に含みます。

受講態度を多少加味します。

以上の3点を「受講レポート30～40%・最終評価60～70%」で配分して総合評価し、60点以上が合格になります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小林芳郎 編著 『健康のための心理学』2006 保育出版社

【推薦書】 講義中に随時紹介します

【参考図書】 日本健康心理学会 編 『健康心理学概論』2002 実務教育出版

科目名	創造性の心理学		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「創造性」という言葉は、よく使われているが、そのわりには、その意味や思考方略をきちんと心得ている人はとても少ないようである。そこで、この科目では、創造性に対する確実かつ実りある理解を図るとともに、紙上エクササイズを通して創造的思考力の向上を図ることを目的とする。

取り扱う内容は、創造性の意義、問題発見の方法、創造的思考の方略である。

この授業を通じて、創造性とは何か、問題発見の諸方法、創造的思考の諸方略(11個)についてしっかりと理解すると共に、創造的思考の方略について、その使い方と有効性について課題を通して体験的に学んでほしい。

内容

1. 創造性とは(その意味と重要性、創造的思考力、創造的技能、創造的人格)
2. 問題発見の方法(問題とは、問題発見の諸方略)
3. 創造的思考の過程(ワラスの4段階説ほか)
4. 創造的思考の方略～<拡張>
5. 創造的思考の方略～<焦点化>
6. 創造的思考の方略～<観点変更>
7. 創造的思考の方略～<逆発想>
8. 創造的思考の方略～<分類・分解>
9. 創造的思考の方略～<加減>
10. 創造的思考の方略～<結合>
11. 創造的思考の方略～<変換>
12. 創造的思考の方略～<類推>
13. 創造的思考の方略～<反復検討>
14. 創造的思考の方略～<弁証法的解決>
15. まとめ

以上の事項について、毎回、教科書を使って(別途、資料を配布することがある)、講義形式で授業を行う。授業中に、関連事項について質問を發して、挙手の形で答えてもらうという質問応答形式を取り入れていく。それに続いて数十分間ほど、個別あるいはグループで、与えられた課題に取り組み、配布された用紙に書いてもらう。その後にそれを発表してもらう。記述した配布用紙は毎回提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。思考力は、スポーツやお稽古事等と同じく、単なる知識の習得だけでは身に付かず、実際に実行してみることが不可欠だからである。

課題によっては、宿題にしてレポート提出を求めることがある。

このようにして、創造的思考の方略について理解を深めるとともに、創造的思考力を体験的に伸ばしていくことをねらっている。

評価

平常点つまり毎回の課題の出来栄点(40点) 筆記試験(60) 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川? 成著 『子どもの創造的思考力を育てる 16の発問パターン』 金子書房

【推薦書】高橋誠編著 『新編 創造力事典』 日科技連

日本創造学会編 『「驚き」から「閃き」へ（創造性研究9）』 共立出版

科目名	子どもの生活支援		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられている。

科目の概要：

子どもとは、形態的にも機能的にも成長発達の途上にあり、すべてが未完成であり、未熟であり、内外的環境の影響を受けて成長発達していく。ここでは特に乳幼児期の子どもを中心に、健全な成長発達を促進するための基本的な生活援助の知識と技術を学習する。また、子どもの未熟性から生じる健康障害に対する看護についても学習する。さらに、子どもを取り巻く重要他者である親・家族の役割や家族に対する支援、子どもを取り巻く社会資源など社会とのかかわりについても学ぶ。

学修目標：

- 1．乳幼児の子どもの心身の成長発達が理解できる。
- 2．乳幼児期の子どもの日常生活での養護が理解できる。
- 3．病気の子どもの看護が理解できる。
- 4．乳幼児の安全管理と応急処置が理解できる。
- 5．子どもを取り巻く社会の現状について、説明できる。

内容

講義、養護の実技、グループワークとプレゼンテーションにより展開する。

1	子どもと社会環境
2	子どもの成長・発達（形態機能の発達）
3	子どもの成長・発達（生理機能の発達）
4	子どもの成長・発達（脳神経・運動機能の発達）
5	子どもの成長・発達（精神機能の発達と遊び）
6	乳児の生活と養護
7	乳児の養護の実際（沐浴実習）
8	幼児の生活と養護
9	子どもの病気と看護（小児感染症を中心に）
10	子どもの病気と看護（子どものよく見られる症状に対する看護）
11	グループワークプレゼンテーション（子どもの発達としつけに関するテーマ）
12	グループワークプレゼンテーション（子どもの育児環境と親に関するテーマ）
13	グループワークプレゼンテーション（子どもを取り巻く社会問題に関するテーマ）
14	乳幼児の事故と安全管理
15	乳幼児の応急処置（実習）

評価

授業への参加状況（20点）、学生のプレゼンテーション（30点）、レポート（50点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】千羽喜代子、吉岡毅、長谷川浩道 『実習育児学』 日本小児医事出版

瀬江千史 改訂版 『育児の生理学 医学から説く科学的育児論』 現代社

日本外来小児科学会編著 『お母さんに伝えたい 子どもの病気ホームケアガイド』 医歯薬出版

科目名	養護概説		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校保健、 の学習を基礎として、養護教諭が行っている職務内容を理解し、養護教諭として諸活動を実践する能力を養うことを目指す。学修目標は 学校保健における養護教諭の職務を理解する。 養護教諭の活動に必要な実践力を身につける。

内容

1	学校教育・学校保健と関連法規について
2	養護教諭の歴史と職務内容の変遷について
3	養護教諭に関する法律・審議会答申について
4	養護教諭の職務について
5	健康診断の目的と計画立案について
6	健康診断の種類と測定方法について1
7	健康診断の種類と測定方法について2
8	健康診断の事後措置について
9	健康診断実施の工夫について
10	健康観察の実際と事後措置について
11	疾病管理の目的と実施について
12	子どもに多くみられる病気の理解と管理方法について
13	健康相談の実施について
14	養護教諭の行う健康相談について
15	まとめ

評価

筆記試験（小テストを含む）7割、レポート2割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

新養護概説 <第5版> 編集代表 采女智津江 少年写真新聞社

科目名	健康相談活動		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

不安や悩みなど心身の健康問題を抱えて保健室を訪れる子どもが多くなっている。子どもの訴える身体的不調の背景に心の健康問などが潜在しているといわれており、養護教諭は、子どものサインにいち早く気づく立場にあることで、体のことにとどまらず心の健康づくりのための対応も求められている。

本科目は、子どもの心身の健康に関する相談や指導を行う際に必要な知識及び技術を身につけることが必要である。学校保健分野の基礎となる1年次履修の「学校保健 」、や2年次履修の「養護概説」で得た知識との関連性を持たせながら、子どもの行動や健康状態等の観察力、気づき、カウンセリング能力等の育成のための演習をも取り入れ、的確な早期発見、早期対応が図られることを目指すものである。

学修目標は、子どもの心身の健康課題とその解決策の理解 健康相談に関する法律、通達等の理解 養護教諭の行う健康相談の基本的なプロセスの理解 組織的な対応の必要性の理解 カウンセリング技能の基本の習得

内容

1	子どもの心身の健康状況の把握方法について
2	子どもの心身の健康状況と健康課題について
3	健康相談に関する法律・通達の内容とその理解
4	養護教諭の行う健康相談の基本と求められる資質能力について
5	課題解決に向けた校内組織体制の必要性について
6	校内組織での養護教諭の役割
7	地域の関係機関との連携方法について
8	事例検討会の進め方
9	事例検討会の実際
10	カウンセリング技法の理解
11	カウンセリング技法に基づく相談の実際
12	役割演技の理解
13	役割演技を通じた相談の実際
14	役割演技を通じた相談の実際に対する協議
15	まとめ

評価

筆記試験6割、演習に対する取組態度4割 60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を実施する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】采女智津江他「新養護概説」少年写真新聞社

【参考図書等】必要に応じて随時紹介する

科目名	衛生学		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

主に感染症について講義する。疾病から免れ、健康を保持・増進し、生命を延長し、身体的・精神的機能を十分に発揮生きていくことはすべての人間の願いである。特に、養護教員を目指す学生は、微生物学についての正確な知識を必要とする。そのため感染症予防のため発生要因（感染源、感染経路、および感受性者）と病原微生物の形態、性質、それらによってもたらされる感染症、特にウイルス性疾患について詳しく講義する。

内容

1. 感染症の歴史
2. 感染症の発生要因 感染源
3. 感染症の発生要因 感染経路
4. 感染症の発生要因 感受性者（抵抗力，免疫）
5. 感染症の発生要因 予防接種
6. 病原微生物 概論（病原性、毒力、発病量、抵抗性など）
7. 病原微生物 抗生物質と耐性菌
8. 病原微生物 ヒトと微生物の共存
9. 感染症 原虫と原虫症
10. 感染症 スピロヘータとスピロヘータ症
11. 感染症 細菌と細菌感染症（赤痢、コレラ、大腸菌）
12. 感染症 細菌感染症（結核）
13. 感染症 リケッチャとリケッチャ症
14. 感染症 ウイルスとウイルス症（風邪、インフルエンザ）
15. 感染症 ウイルス感染症（新型インフルエンザ、エイズ）

評価

期間中4回のペーパーテストによる（授業最終日に試験がある）。

60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】村松宰、梶本雅俊編 『公衆衛生学 栄養科学シリーズ』 講談社

教科書は使用しない。

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必,必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人は生命を育む自然環境、日常生活を支える生活環境および社会環境の中で生きている。健康で豊かな生活を確保するためには、環境に適応するだけでなく、環境を変えていく必要がある。健康を保持・増進し、生命を延長し、身体的・精神的能力を十分に発揮することは多くの人々が望むところである。一人ひとりが衛生的な生活を営むことにより公衆衛生が達成される、また公衆衛生が達成されれば個人の衛生も守られる。人の衛生は直接的には物理的、化学的および生物学的環境にかかわりあい深く、それらが生体に及ぼす影響について講述する。

内容

- | | | | |
|-----|----|--------------|---------------------------|
| 1. | 1章 | 物理的要因による健康障害 | 紫外線 |
| 2. | | 物理的要因による健康障害 | 熱中症、高山病 |
| 3. | | 物理的要因による健康障害 | 放射線障害 |
| 4. | 2章 | 物質の安全性 | 毒性の発現、摂取量と生体反応 |
| 5. | | 物質の安全性 | 毒性の評価, 食品添加物の安全性 |
| 6. | | 物質の安全性 | 発ガン物質（ニトロソアミン、カビ毒、ダイオキシン） |
| 7. | | 物質の安全性 | 粉塵、アスベスト |
| 8. | | 物質の安全性 | ナノマテリアル |
| 9. | 3章 | 屋内環境 | 近隣騒音 |
| 10. | | 屋内環境 | 化学物質過敏症 |
| 11. | | 屋内環境 | ダニアレルギー |
| 12. | 4章 | 環境問題 | 従来 of 公害問題 |
| 13. | | 環境問題 | 個人が発生源になる都市型公害 |
| 14. | | 環境問題 | 環境ホルモン |
| 15. | | 環境問題 | 地球温暖化 |

評価

単元毎、4回のペーパーテストによる。
得点率60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】村松宰、梶本雅俊編 『公衆衛生学 栄養科学シリーズ』 講談社

科目名	看護学概論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。また、社会福祉主事任用資格取得に関連している科目でもある。

科目の概要：

看護の対象は、さまざまな環境の中で生活をしている人間である。看護では、対象の健康の回復あるいは増進をはかり、対象の欲求を充足することをめざす。ここでは、人間の健康と生活を理解し、人間が本来持っている自然治癒力の向上を目指すために、根拠に基づいた看護実践の基礎となる理論および看護の視点を学び、看護援助の基礎的知識を学習する。

学修目標：

1. 看護の本質が理解でき、看護における安全安楽の意味が説明できる。
2. 看護における観察の意味がわかる。
3. それぞれでのライフサイクルにおける看護の役割が理解できる。
4. 生活環境の調整と看護との関係が理解できる。
5. 人間のニード充足のための看護援助が理解できる。

内容

* 後期に「看護援助方法」の履修を予定している学生は、本科目単位を取得しておかないと、「看護援助方法」は履修できません。

1	看護の本質と看護の対象
2	人間の尊厳と健康
3	安全と安楽
4	看護におけるコミュニケーションの基本
5	看護における観察
6	看護過程
7	ライフサイクルと看護（小児期の看護）
8	ライフサイクルと看護（成人期・老年期の看護）
9	生活環境の調整と看護
10	ニードの充足と看護（栄養と食事）
11	ニードの充足と看護（排泄）
12	ニードの充足と看護（清潔）
13	ニードの充足と看護（運動）
14	ニードの充足と看護（休息と睡眠）
15	看護学概論のまとめ

評価

レポート（20点）、筆記試験（80点）により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中桐佐智子・天野敦子・岡田加奈子編著 『最新看護学 学校で役立つ看護技術』東山書房

【推薦書】坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の基本』ニューヴェルヒロカワ

坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の実際』ニューヴェルヒロカワ

薄井坦子著 『科学的看護論』日本看護協会出版会

【参考図書】V.Henderson著 湯楨ます・小玉香津子訳 『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントが適切に行える。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護が説明できる。
5. 苦痛軽減のための看護が説明できる。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサインズ（体温・脈拍）
3	バイタルサインズ（呼吸・血圧・意識）
4	バイタルサインズ測定実習
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメント（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメント（各論：胸部・腹部・四肢）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法と汚染物の取り扱い）
10	感染防御実習
11	急性期の症状のある人の看護（発熱・腹痛・頭痛）
12	急性期の症状のある人の看護（嘔気嘔吐・呼吸困難）
13	急性期の症状のある人の看護（けいれん・意識障害・心肺停止）
14	苦痛軽減のための援助（電法）
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業への参加状況（10点）、レポート（20点）、筆記試験（70点）により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】看護学概論で使用した『最新看護学 学校で役立つ看護技術』の教科書を使用

【推薦書】江口正信他著 『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社

日野原重明監修 『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

植木純・宮脇美保子 『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

【参考図書】犬塚久美子編著 『ひとりで学べる基礎看護技術Q&A』 看護の科学社 492.9/H

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

- 1．バイタルサインズの意味が理解でき、正確に測定ができる。
- 2．フィジカルアセスメントが適切に行える。
- 3．感染防御の基礎について説明できる。
- 4．急性期の症状のある人の看護が説明できる。
- 5．苦痛軽減のための看護が説明できる。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサインズ（体温・脈拍）
3	バイタルサインズ（呼吸・血圧・意識）
4	バイタルサインズ観察実習
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメント（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメント（各論：胸部・腹部・四肢）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法と汚染物の取り扱い）
10	感染防御実習
11	急性期の症状のある人の看護（発熱・腹痛・頭痛）
12	急性期の症状のある人の看護（嘔気嘔吐・呼吸困難）
13	急性期の症状のある人の看護（けいれん・意識障害・心肺停止）
14	苦痛軽減のための援助（電法）
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業への参加状況（10点）、レポート（20点）、筆記試験（70点）により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】看護学概論で使用した『最新看護学 学校で役立つ看護技術』の教科書を使用

【推薦書】江口正信他著 『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社

日野原重明監修 『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

植木純・宮脇美保子 『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

【参考図書】犬塚久美子編著 『ひとりで学べる基礎看護技術Q&A』 看護の科学社 492.9/H

科目名	小児保健看護学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

子どもの看護として、ここでは特に、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、看護援助を学習する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患や障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

学修目標：

- 1．学校感染症の特徴と看護について説明できる。
- 2．子どもの主なアレルギー疾患の特徴と看護について説明できる。
- 3．子どもの主な慢性疾患の病態と看護について説明できる。

内容

1	子どもの身体の解剖生理（筋骨格・目・耳・歯）
2	子どもの身体の解剖生理（内臓の生理機能）
3	子どもの健康状態の把握
4	学校感染症（第1種）
5	学校感染症（第2種）
6	学校感染症（第3種）
7	子どものアレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）
8	子どものアレルギー疾患（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）
9	子どもの腎疾患（糸球体腎炎・尿路感染症）
10	子どもの腎疾患（ネフローゼ症候群・尿検査）
11	子どもの心疾患（先天性心疾患）
12	子どもの心疾患（川崎病・不整脈と心電図）
13	子どもの糖尿病と肥満
14	子どもの眼疾患・耳鼻咽喉疾患
15	小児保健看護学のまとめ

評価

3回の筆記試験により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始後提示する。

【推薦書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

加藤英治 『症状でみる子どものプライマリ・ケア』 医学書院

【参考図書】村田光範・浅井利夫編 『小児疾患生活指導マニュアル』 南江堂

加藤忠明・西牧謙吾・原田正平編著 『すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル』 東京書籍

科目名	救急処置活動		
担当教員名	齋藤 千景、布施 晴美、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。養護教諭として適切な救急処置活動をするための知識と技術を学ぶ。基本的事項を学習したのち、児童生徒に多くみられる、内科的・外科的な疾患に対する救急処置の方法を学習する。心肺蘇生法や止血法・包帯法などの演習を行う。学修目標は 学校における救急処置の手順を理解する。 各症状における救急処置の判断と処置の方法を理解する。 救急処置の基本的技術を習得する。

内容

1	学校で行う救急処置の基本的な考え方について
2	救急処置の基本的な手順について 1
3	救急処置の基本的な手順について 2
4	学校で行う内科的症状に対する救急処置について（発熱・頭痛・腹痛など）
5	学校で行う内科的症状に対する救急処置について（けいれん・熱中症など）
6	学校で行う外科的症狀に対する救急処置について（骨折・捻挫・打撲など）
7	学校で行う外科的症狀に対する救急処置について（頭部外傷・熱傷など）
8	学校で行う外科的症狀に対する救急処置について（眼科・耳鼻科・歯科など）
9	保健指導と救急処置後の事務手続きについて
10	止血法・包帯法など 演習
11	止血法・包帯法など 演習
12	止血法・包帯法など 演習
13	事例（外科的症狀）を用いた演習
14	事例（内科的症狀）を用いた演習
15	まとめ

評価

試験（筆記と実技を行う）9割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：授業中に指示する

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	臨床看護実習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* ,選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。

科目の概要：

学内での講義・ロールプレイと学外での臨床講義によって展開する。ここでは、看護の視点で子どもの健康保持のために養護教諭として適切な判断と対応ができるための基礎的能力を培う。

学修目標：

1. 感染管理に関して、学校現場にあてはめた場合、どのように取り扱うことがよいか考え、適切な対処や行動をとることができる。
2. 慢性疾患や障がいのある子ども達を地域の学校（特別支援学校を含む）で受け入れる際に、適切な援助が理解でき、対処・行動することができる。
3. 身体不調や異常を訴える子ども達に対して、症状を見極める能力を身に付け、適切な看護ケアが実施できる。
4. 命や性の教育について、考えることができる。

内容

養護教諭免許取得を本気で目指している学生で、かつ、「看護学概論」「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」「衛生学」の単位を修得している学生を対象とする。

1	ヘルスアセスメントと救急処置のプロセス
2	外科系疾患の重症度の見極めと対応
3	内科系疾患の重症度の見極めと対応
4	スポーツ障害
5	創傷保護と包帯法技術実習
6	身体不調や異常を訴える子どもへのフィジカルアセスメントと対応
7	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（発熱・頭痛・倦怠感）
8	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（腹痛・嘔気嘔吐・呼吸困難）
9	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（掻痒感・外傷・打撲）
10	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（意識障害・けいれん・不定愁訴）
11	臨床講義（病院の機能と役割、他職種との連携と機能、病院における感染管理の実際）
12	臨床講義（小児救急看護の実際）
13	臨床講義（慢性疾患および障害のある子どもへの看護、病院と学校との連携）
14	臨床講義（生命と性の教育）
15	臨床看護実習まとめ

評価

授業・実習の参加状況（50点）およびレポート（50点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」等で使用したテキストを準備しておくこと。他にも、授業の中で提示していく。

【推薦書】衛藤隆他編 『最新Q & A教師のための救急百科』 大修館書店

加藤英治 『症状で見る子どものプライマリ・ケア』 医学書院

【参考図書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

社会福祉原理・理論・対象・分野等、全般についての講義を行う。

授業の概要

少子高齢社会における社会福祉の現状を制度的視点からと共に、専門行動的視点から歴史の変遷を含めて鳥瞰図的にとりあげる。介護を行ううえで疾病や遭遇しやすい事故についての知識を持ち、保健医療関係者及び機関との連携、協力のあり方について学び、介護援助に必要な知識・技術・態度・視点を身につけ、介護の本質について検討する。

学修目標

本科目の学修目標は、（１）わが国の社会福祉制度の概要と各分野における現状の理解、（２）身近に起こっている福祉領域に関する諸問題について、学生個々が関心を持つこと、（３）個々の関心を持つ諸問題の現状と課題についての理解、を目標とする。

内容

1	社会福祉の理念と概念について、社会的歴史的所産として捉え方を学ぶ
2	社会福祉の対象と主体について、現在から過去にさかのぼってその変遷を学ぶ
3	社会福祉のニーズ概念について、需要と供給の関係のもとに検討してゆく
4	社会福祉の発展 について、英国と日本の比較をしながら学ぶ
5	社会福祉法体系について、社会福祉法制度の全体的把握を検討する
6	少子高齢化（１） 少子高齢化の要因について、北欧諸国を中心に考える（ビデオ使用）
7	少子高齢化（２） 少子高齢化の要因について、日本の現状を考える
8	高齢者福祉（１）介護保険制度の概要と要介護者問題の検討
9	高齢者福祉（２） 介護現場の実際（ビデオ使用）虐待・抑制について考える
10	中間試験実施（ノート・配付資料持ち込み可）
11	専門職としてのケアワーク（１） 専門職業としてのケアワークを考える
12	専門職としてのケアワーク（２） 他職種としてのケアワークを考える
13	社会福祉援助技術の概要（１） ソーシャルワーク全般について制度組織との関係で紹介
14	社会福祉援助技術の概要（２） F・P・バイステックの7原則、自己覚知、交流分析について
15	まとめ

評価

中間試験（持ち込み自筆ノート・配付資料のみ）及び定期試験の結果を総合して行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

馬場茂樹 / 編著 和田光一 / 編著 『現代社会福祉のすすめ』 学文社，2009年1月。

他オリジナル資料配付

科目名	老人福祉論		
担当教員名	安岡 芙美子、横山 貴美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉、介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。

高齢者福祉制度の発展過程について理解する。

相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

内容

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）

高齢者福祉制度の発展過程

介護保険法

介護報酬

介護保険法における組織及び団体の役割と実際

介護保険法における専門職の役割と実際

介護保険法におけるネットワーキングと実際

地域包括支援センターの役割と実際

老人福祉法

高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律

高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律

高齢者の居住の安定確保に関する法律

評価

レポートで30点、試験で70点とする。

試験、レポートを合計し評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 ミネルヴァ書房

科目名	児童福祉論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（ひとり親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援等）と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子供の権利（子どもの最大の利益を実現する視点）を理解する。
- 4 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、いじめ、少年非行、家庭養育機能等
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）
5	児童福祉法
6	児童虐待の防止に関する法律
7	D V法の概要及び売春防止法の概要
8	母子及び寡婦福祉法
9	母子保健法
10	児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当の支給に関する法律の概要
11	次世代育成支援対策推進法・少子化対策推進法
12	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際（国・都道府県・市町村等の役割）
13	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と他職種連携と実際
14	児童相談所の役割と実際
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 ミネルヴァ書房

参考図書 社会福祉六法

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名	鈴木 晴子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、保育士資格を取得するにあたって必要となる科目である。子どもや家庭をめぐる福祉の概要を学ぶなど、子どもや家庭を支える様々な専門職として基盤となる科目である。

科目の概要

現代の子どもの育つ環境の実態について具体的に学ぶことを通して、子どもに携わる専門職(主に保育者)としての子ども家庭福祉への見識を養うことを目指す。子ども権利条約や子どもに携わる専門職(主に保育者)の専門性と役割について理解を深める。

学修目標

1. 子ども家庭福祉の変遷を知り、基本的知識を身につける。
2. 子育て家庭への支援、児童福祉施設・児童厚生施設の現状を理解する。
3. 子どもの権利について理解を深める。
4. 保育者に求められる職務や資質・技能を理解する。

内容

1	子ども家庭福祉とは
2	「今」の子どもをめぐる現状
3	子ども家庭福祉の歴史をたどる
4	子ども観の変遷と子どもの権利条約
5	どのような組織・専門職があるのだろうか 保育ニーズと保育者
6	どのような組織・専門職があるのだろうか 子ども家庭福祉の行政機関
7	どのような組織・専門職があるのだろうか 児童福祉施設
8	気になる子どもの支援と課題 発達の躓きをもつ子どもを取り巻く現状
9	気になる子どもの支援と課題 子ども虐待
10	気になる子どもの支援と課題 少年非行等への対応
11	母子保健サービスと子育て支援の展開
12	子育て支援・次世代育成支援サービスの展開
13	子ども家庭福祉の援助活動と専門職の役割
14	まとめ ~子ども家庭福祉とは~
15	まとめ ~育ち・育てあう関係とは~

評価

授業への参加状況(20点)、授業内の課題やリアクションペーパー(30点)、期末テスト(50点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行なう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

〔教科書〕

新 保育士養成講座 第3巻 児童家庭福祉 全国社会福祉協議会
最新保育資料集2012 ミネルヴァ書房

〔参考書〕

適宜、授業内で紹介する

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：心理学を学ぶ上で、当事者の暮らしや支援の理解に欠かせない社会福祉の学修として位置付ける。人間が社会的な存在である以上、こどもから高齢者に至るすべてのライフステージで心身の健康が損なわれる機会がある。とりわけ精神疾患を患うことで社会的な不利がもたらされ、度重なる人生の危機にさらされやすい。社会的な制度の立ち遅れや社会的偏見の歴史から、その原因を探り、支援に係る専門職の役割を学ぶ。中でも第二次世界大戦後、歴史的に形成されてきた当事者こそが「その人」の専門家であるという視点を軸に据える。

科目の概要：まず、精神保健福祉の意義、精神障がい基礎知識、精神保健福祉の歴史的社会的背景、精神保健福祉制度の概要について理解する。ついで、生活の場及びライフサイクルにおける精神保健福祉の実践的役割や多様な支援手法を学ぶ。また、当事者ゲスト講師による地域での固有の実践を共有する。

- 学修の目標： 1 精神保健福祉の意義・制度及び歴史的形成過程の理解。
 2 我が国の精神障がい者の暮らしの実態の理解。
 3 当事者主体の支援視点の形成。

内容

1	精神保健福祉の課題を考える
2	精神保健福祉の歴史から見た精神障害者施策の概況
3	精神疾患の理解（1）精神保健福祉の理解に必要な主な疾患と対応
4	精神疾患の理解（2）統合失調症とその回復
5	精神保健福祉法の理解
6	精神保健福祉援助技術概論
7	生活保護法と退院促進事業の展開
8	家族支援とその課題
9	自殺・災害への精神保健福祉からの取り組み
10	事例にみる精神保健福祉士の役割と実践 1
11	事例にみる精神保健福祉士の役割と実践 2
12	当事者からのメッセージ（1）AA
13	当事者からのメッセージ（2）大宮・やどかりの里
14	課題提出・まとめ
15	振り返り

評価

授業目標に対する課題の提出 20%、授業参加態度 30%、最終回評価 50% 60%以上合格 合格点に満たない場合に

は再試験を行います

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野末浩之「こころ・からだ・暮らし」精神障害者の理解と地域支援 萌文社

【推薦書】大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア、捨てない日本」岩波書店

藤本豊編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房

野中猛「精神障害リハビリテーション」中央法規

参考図書は随時授業で紹介します

科目名	レクリエーション論		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、人と人との出会いや人とのつながりにおいて、とても意味のある科目です。特に、社会福祉サービスにおいてレクリエーションの果たす役割は大きく、重要と言えます。ここでは、社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と、人々への日常的な楽しさや心地よさを提供する援助者としての役割について学んでいきます。また、援助者が身につけるためのコミュニケーション技術として、アイスブレイキングやホスピタリティ(心地よさ・人間関係能力)を演習します。これらは、介護コースの科目であるレクリエーション活動援助法につながる、基本的な学修と言えます。

学修目標は、下記の5点です。

1. 人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深める。
2. レクリエーションは、健康づくりをはじめ社会福祉や教育、地域づくり、環境に至るまで幅広い領域で活用されていることを理解し、援助者としての役割を学修する。
3. ノートやファイルなどを有効に活用し、資料作成を行うと共に、毎時間ごとのふりかえりや記録をとることの重要性を理解する。
4. レクリエーションにおけるホスピタリティについて理解し、姿勢・態度・行動を身につける。
5. コミュニケーション技術に必要な素材やアクティビティを体験し、人前で提供出来るようになる。

内容

1	はじめまして 出会いの喜び アイスブレイキングの体験プログラム
2	レクリエーションの意義
3	レクリエーションと社会福祉について
4	レクリエーションの支援 利用者と援助者のあり方について
5	福祉レクリエーション援助のプロセス
6	福祉レクリエーション援助のための技術と方法 アクティビティの実際
7	援助者のためのコミュニケーション技法
8	個別レクリエーション援助の立案と方法
9	集団を介したレクリエーション援助の方法
10	レクリエーション援助におけるホスピタリティの重要性
11	地域とレクリエーションの取り組み
12	プログラム計画と展開法
13	対象に合わせたプログラム作り
14	プログラムのアレンジ法
15	まとめ

評価

課題・レポート20% 演習発表20% 筆記試験40% 授業態度20% 60点以上を合格とします。合格点に満たな

かった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は、特に使用しない。必要に応じてプリントを配布。

推薦書 福祉士養成講座編集委員会編集 新版 介護福祉士養成講座 第3版 レクリエーション活動

援助法 中央法規出版 (財)日本レクリエーション協会監修 福祉レクリエーションシリ
中央法規出版

ーズ全3巻

ホスピタリティをみかく本 ホスピタリティトレーニング研究会 遊戯社

参考図書 レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

その他必要に応じて、随時教室で紹介する

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の人間福祉学の領域にあり、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を發揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復も図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

1. リハビリテーションの理念が理解できる。
2. 障がいの受容プロセスが理解できる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

1	リハビリテーションの理念
2	リハビリテーションの目的と対象
3	障がいとリハビリテーション
4	障がいの受容過程とQOL
5	死別とグリーフワーク
6	ライフサイクルとリハビリテーション
7	子どものリハビリテーション 心身障がい児の基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 広汎性発達障害と学習障害
10	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	施設におけるリハビリテーション
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（20点）、レポート（20点）、筆記試験（60点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには』 中央法規 492.9/R

科目名	卒業研究		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を定める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を定める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を定める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を定める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を定める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を決める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を定める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を定める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学術論文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を追及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・方法を定める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を追及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	認定心理士（心理学科）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の必修科目である。

科目の概要：

卒業研究に着手し、研究報告を執筆し提出する。学生にとってこの研究はおそらく生涯に書く最初で最後の学术论文であろう。それは書き手にとって4年間の学業の集大成であり、授業で習得した科学的な思考を、目的、方法、結果、考察の過程を通してフルに発揮する機会である。

研究にはオリジナリティが求められる。ここでのオリジナリティとは、学生が1年をかけて問題意識を迫及する価値のあるテーマを持つこと、そのテーマの掘り下げ、あるいは実証する中で、新しい発見をし、それを論理的に展開して、文章化することである。

学生は担当教員の指導を受けながら、自ら研究を進める。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた研究展開ができる。
- 2．自己の研究のオリジナリティが説明できる。
- 3．研究論文が執筆できる。

内容

担当教員ごとに、ゼミと個別指導によって、研究の過程を決める。

実証研究の場合は、

- ・先行研究を調べ、そこから問題を迫及し、テーマを設定する。
- ・方法を定める。
- ・実験、調査、観察、面接等を行い、結果を得る。
- ・結果の分析、考察を行う。
- ・以上を文章化する。

文献研究の場合は、

- ・研究や資料を調べ、そこから問題を迫及し、テーマを設定する。
- ・文献や資料を集め研究する。
- ・以上を文章化する。

提出期限は12月中旬を予定。

提出論文の長さは、400字詰め20枚以上。

9月下旬に中間報告書を提出する。

その他、詳細については担当教員の指示に従うこと。

評価

研究過程・論文作成過程の指導および提出された論文の審査、研究の口頭発表により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	文化と発達		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質：講義形式になるが、視聴覚教材や簡単な実験デモを取り入れ、体験的に理解することを目指す。また、適宜ディスカッションを行い、思考の交流を促す。

科目の概要：本講座では、「文化」と「教育」の観点から、子ども（乳幼児，児童，青年）の言語や表象、因果推論などの発達を学ぶ。子どもの豊かな発達を実現するための環境や社会的条件とはどのようなものか、地域文化、芸術環境などの側面から総合的に考えていく。

学修目標：子どもの発達の基本的特徴を学ぶとともに、その発達の变化をもたらすメカニズムについて理解を深めることがねらいである。また、今日子どもたちがかかえる困難や発達の問題について、家庭・地域・学校などでの支援のあり方を検討する。学生には、研究と社会のつながりを意識して学んでほしい。

内容

- 01．ガイダンス
- 02．認知発達の基礎 - ヒトから人へ
- 03．認知発達の基礎 - 感覚を通して周囲の世界の認知する
- 04．文化と言語発達
- 05．文化と概念発達
- 06．コミュニケーションの発達：情報と文化
- 07．コミュニケーションの発達：情報と教育
- 08．社会に生きる力 - 因果推論の発達
- 09．社会に生きる力 - 論理的思考の発達
- 10．社会に生きる力 - 学習とメタ認知
- 11．世界の教育と文化
- 12．認知発達と支援：発達障碍の発見
- 13．認知発達と支援：学習障碍を考える
- 14．認知発達と支援：文化と教育
- 15．総括

評価

授業内小課題30点、筆記試験課題70点の計100点で評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書・参考書は、授業開始前および授業時に適宜紹介する。

科目名	カウンセリング基礎		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

心理的問題を解決する方法のひとつにカウンセリングがある。そのカウンセリングの基本的技法を幅広く専門的に理解を深める。その際、対人関係における自分と他人との特徴を知るということは、人間的成長にも密接につながる性格の科目である。

科目の概要

カウンセリングとはどのようなものか、またどのように進められるのかを傾聴や共感、受容といったカウンセリングの基本的な技術や技法を体験や事例を通して学ぶ。

学修目標

- ・カウンセリングの基礎基本となる技術（技法）の習得
- ・カウンセリングはどのように進められるのかを学ぶ
- ・クライアント理解の幅を広げる

内容

1	カウンセリングの方法と技法(1)
2	カウンセリングの方法と技法(2)
3	カウンセリングの進め方
4	ラポールと共感的理解の図り方
5	クライアント（来談者）理解の深化とその方法(1)
6	クライアント（来談者）理解の深化とその方法(2)
7	紙上エクササイズ(1)～ラポールづくりと共感的理解について
8	働きかけの技術(1)～良い質問、良くない質問
9	働きかけの技術(2)～質問の分類
10	紙上エクササイズ(2)～応答の要素と応答のレベル
11	紙上エクササイズ(3)～プロセスと応答
12	カウンセリングの全体像の理解(1)
13	カウンセリングの全体像の理解(2)
14	カウンセラーとしての自己点検
15	まとめ

評価

授業中の姿勢や態度、課題（30％）、試験（70％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用する教科書：福山清蔵 著 『実践カウンセリングワークブック』 日精研心理臨床センター編

科目名	心理検査法実習		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理検査基礎実習」の応用となる科目である。「臨床心理学概論」「精神保健概論」との関連が強い。

科目の概要

心の状態や問題について総合的な理解・介入を行うために、情報収集する方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、報告書の書き方を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標

- ・心理検査の実施、結果の分析を学ぶ。
- ・心理検査の報告書の作成方法を学ぶ。

内容

1. 心理査定とは何か
2. 知能検査の復習
- 3～4. 事例検討：知能検査の結果から子どもの特性を理解する
5. 描画法の復習
- 6～7. 事例検討：描画法を通して内的世界を理解する。
8. ロールシャッハテストの復習
- 9～10. 事例検討：投影法により精神疾患を理解する。
11. 箱庭療法の復習
- 12～13. 箱庭作品による心理的変容を理解する。
14. テストバッテリーの総括
15. まとめ

*履修前に箱庭を作成することが求められる。

評価

4種類のテーマに関する提出物(25点×4)により、総合的に評価する。60点以上を合格とする。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は指定しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

科目名	心理検査法実習		
担当教員名	森崎 ひろみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「心理検査基礎実習」の応用となる科目である。「臨床心理学概論」「精神保健概論」との関連が強い。

科目の概要

心の状態や問題について総合的な理解・介入を行うために、情報収集する方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、報告書の書き方を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標

- ・心理検査の実施、結果の分析を学ぶ。
- ・心理検査の報告書の作成方法を学ぶ。

内容

- 1．心理査定とは何か
- 2．知能検査の復習
- 3～4．事例検討：知能検査の結果から子どもの特性を理解する
- 5．描画法の復習
- 6～7．事例検討：描画法を通して内的世界を理解する。
- 8．ロールシャッハテストの復習
- 9～10．事例検討：投影法により精神疾患を理解する。
- 11．箱庭療法の復習
- 12～13．箱庭作品による心理的変容を理解する。
- 14．テストバッテリーの総括
- 15．まとめ

*履修前に箱庭を作成することが求められる。

評価

4種類のテーマに関する提出物（25点×4）により、総合的に評価する。60点以上を合格とする。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は指定しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

科目名	カウンセリング基礎演習		
担当教員名	鶴木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「カウンセリング基礎 」や「カウンセリング基礎 」の応用科目である。

科目の概要

実践的な演習を通して、カウンセリングの技法を習得することをねらいとしている。自己表現向上のためにアサーション、自己理解・他者理解のために継続的コラージュ制作を行う。その後、カウンセリング技法を復習した上で、受講生同士がペアとなり、授業時間以外で試行カウンセリングを行う。録画したDVDと発話を逐語録としたものをもとに、クラスでディスカッションを行う。

学修目標

- ・カウンセリングの擬似的体験を通して、カウンセリング技法の向上を目指す。
- ・DVDや逐語録により、自分や他者のカウンセリング技法を客観的に分析し、改善点を見出す。

内容

1.ガイダンス

2~5.カウンセリング技法の復習

6~14.試行カウンセリングの実践と討議

15.まとめ

*2人1ペアとなり、授業時間外で試行カウンセリングを2回行うことが求められる。施行後は、逐語録を作成し、授業時間内に発表を行う。各ペア1回は発表となる。クラス全体での討議により、受講生のカウンセリング技術の向上を目指す。

評価

提出物(50点)及び期末試験(50点)により評価を行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は特に指定しない。推薦書は授業中に適宜紹介する。

科目名	発達・教育相談演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい：事例やロールプレイングを通して、教育相談の手順や発達障がい児への対応の仕方などについて理解を深める。

目標：発達・教育相談に関する基本的な知識をみにつけ、発達・教育相談に携わるものとしての基本的な姿勢を身につける。

概要：不登校やいじめなどの事例や問題を抱える子どもたちへの相談場面などについて、ロールプレイングなどを通して理解する。また、事例の中で、教育相談の技法を習得するのみならず相談担当者としての資質も含めて総合的に学習する。なお、相談活動に役立つ実践的な方法として、エンカウンターグループやプレイセラピー、描画法などの臨床心理学的手法も取り入れたいと考えている。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

注意 あらかじめ、学科専門科目の「教育相談」を受講しておくことが望ましい。本講義は、ロールプレイなど参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	エンカウンターグループ
3	面接練習基礎
4	面接練習実践 子ども編
5	面接練習実践 子ども編
6	面接練習実践 子ども編
7	面接練習実践 子ども編
8	子どもの遊び
9	芸術療法
10	教育相談室を作る
11	面接練習実践 親編
12	面接練習実践 親編
13	面接練習実践 教師編
14	面接練習実践 緊急対応・地域連携編
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物35%、最終発表内容65%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、レポートを課す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

菅野純 『教師のための学校カウンセリングゼミナール』 実務教育出版 1995

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これには企業体験型、職業体験型、キャリアビルド型などがある。

大学での講義形式の授業とは異なり、単なる知識の習得や理解に終わるのではなく、実体験を通して現実の様子をじかに感じ取り、その現実に対応していくことの大切さを実感的に学ぶことができる。このような貴重な体験を通して、社会や企業の現実の一側面を知り、現実の仕事や職業とは何かということについて考えるとともに、自己の将来設計や職業適性について自らに問う機会となることを期待したい。言い換えれば、キャリア選択に関わる自己理解の深化と自己啓発の好機となるよう取り組んでほしい。

なお、インターンシップはあくまでも授業の一環として行われるものである。したがって、アルバイトとは異なる。その意味から、実習中の実労に対しては無報酬が原則である。また、交通費支給に関しても受け入れ先によって異なる。

内容

一定期間(実質10日間、実労60時間以上)、受け入れ先において就業体験をする。その実施期間は夏期休暇中(前期)または春期休暇中(後期)が中心となる。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、Aが45点、Bが45点、Cが10点である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これには企業体験型、職業体験型、キャリアビルド型などがある。

大学での講義形式の授業とは異なり、単なる知識の習得や理解に終わるのではなく、実体験を通して現実の様子をじかに感じ取り、その現実に対応していくことの大切さを実感的に学ぶことができる。このような貴重な体験を通して、社会や企業の現実の一側面を知り、現実の仕事や職業とは何かということについて考えるとともに、自己の将来設計や職業適性について自ら問う機会となることを期待したい。言い換えれば、キャリア選択に関わる自己理解の深化と自己啓発の好機となるよう取り組んで欲しい。

なお、インターンシップはあくまでも授業の一環として行われるものである。したがって、アルバイトとは異なる。その意味から、実習中の実労に対しては無報酬が原則である。また、交通費支給に関しても受け入れ先によって異なる。

内容

一定期間(実質10日間、実労60時間以上)、受け入れ先において就業体験をする。その実施期間は夏期休暇中(前期)または春期休暇中(後期)が中心となる。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。

なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、Aが45点、Bが45点、Cが10点である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 実際に活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望に沿うよう注意すること。
3. 活動を行うなかで、活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省すること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

評価

活動の合計時間が学科で定める時間等に達していることが評価の前提となる。

活動の概要および成果をレポートにまとめるとともに発表会を行う。活動受け入れ先の責任者(または担当者)から提出してもらう活動報告とともに、レポートや口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行う

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

科目名	生徒指導		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

生徒指導については、高校時代まで指導を受けるという経験を通じて、ある程度は知っているであろう。しかし、それは必ずしも当を得た理解とは限らない。そこで、生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性、指導の組織と計画、生徒理解の方法、指導方法、進路指導等について、きちんと理解してほしい。

内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法（観察法）
8. 児童・生徒理解の方法（面接法）
9. 児童・生徒理解の方法（検査法）
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容（その1）
13. 進路指導の内容（その2）
14. 進路指導の方法
15. まとめ

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて別途プリントや資料を配布し、講義形式で行う。そして、質問を発して、拳手の形で答えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。

また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて何回か質問を発し、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点(15点) レポート(15点) 筆記試験(70点) 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川? 成編著 『生徒指導の理論と方法（三訂版）』 学芸図書

【参考図書】江川? 成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
- 2．自己の研究の新しい知見が説明できる。
- 3．研究の倫理的配慮について説明できる。
- 4．科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80％）と口頭発表の内容（20％）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
- 2．自己の研究の新しい知見が説明できる。
- 3．研究の倫理的配慮について説明できる。
- 4．科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80％）と口頭発表の内容（20％）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
- 2．自己の研究の新しい知見が説明できる。
- 3．研究の倫理的配慮について説明できる。
- 4．科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80％）と口頭発表の内容（20％）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
2. 自己の研究の新しい知見が説明できる。
3. 研究の倫理的配慮について説明できる。
4. 科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
2. 自己の研究の新しい知見が説明できる。
3. 研究の倫理的配慮について説明できる。
4. 科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80%）と口頭発表の内容（20%）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
- 2．自己の研究の新しい知見が説明できる。
- 3．研究の倫理的配慮について説明できる。
- 4．科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80％）と口頭発表の内容（20％）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

- 1．科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
- 2．自己の研究の新しい知見が説明できる。
- 3．研究の倫理的配慮について説明できる。
- 4．科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80％）と口頭発表の内容（20％）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
2. 自己の研究の新しい知見が説明できる。
3. 研究の倫理的配慮について説明できる。
4. 科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80％）と口頭発表の内容（20％）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
2. 自己の研究の新しい知見が説明できる。
3. 研究の倫理的配慮について説明できる。
4. 科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80％）と口頭発表の内容（20％）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	卒業論文		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間発達心理学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

4年次の選択科目であり、卒業研究の論文よりさらにグレードの高い論文を求めている科目である。

科目の概要：

卒業研究よりさらにグレードの高い、精緻かつ綿密な研究内容を求める。先行研究について調べ、問題・仮説を立て、そこから実験・観察・調査・面接等の実証的な方法を定め、実施する。その結果を整理分析し、考察を加える。この過程で新しい知見を見出す。この展開を論文にまとめる。さらに成果を口頭により発表する。

大学院進学希望者は、必須と考えてよい。

学修目標：

1. 科学的思考に基づいた、精緻かつ綿密な研究展開ができる。
2. 自己の研究の新しい知見が説明できる。
3. 研究の倫理的配慮について説明できる。
4. 科学的な研究論文が執筆できる。

内容

3年次からのゼミおよび4年前期からの卒業研究で自分のテーマを追求する中で、卒業研究より高度な論文を書きたいと思う学生は、ぜひ積極的に履修してほしい。

次の手順を踏む。

- ・後期履修登録
- ・9月：卒業論文研究計画書を提出する。
- ・12月：卒業論文を提出する。
- ・1月：卒業論文発表会で研究発表をする。

提出論文の長さは、400字詰め50枚以上。

提出された論文は、主査（指導教員）、副査（心理学科教員1名）により審査される。

その他詳細については、担当教員の指示に従うこと。

評価

提出された論文の内容（80％）と口頭発表の内容（20％）により、総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

個別に指示する。

科目名	発達心理学特講 A (認知・言語)		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：専門科目の発達領域の科目をある程度学習していることを前提として、特定の特性・能力に関する発達について、より専門的に学習します。本科目では、言語発達とその支援について学習します。

科目の概要：言語の問題は、認知、社会性、情動など他の精神機能と密接に関連しています。そのため、この問題に適切に対処するための言語発達とその支援に関する基礎知識と技法について理解することを目的とします。

学修目標：

1. 言語発達支援に必要な、広い視野から対象を見つめるための知識の修得。
2. 言語発達支援に必要な、評価を可能にする知識の修得。
3. 言語発達支援を行う際の指針となる知識の修得。

内容

1. 言語発達と言語発達支援
2. 言語発達理論
3. 言語発達の生物学的・神経学的基礎
4. 言語発達の社会的基礎
5. 言語発達の認知的基礎
6. 言語発達の概観
7. 言語発達の教育的側面
8. 言語発達の社会的・文化的側面
9. 言語発達支援の現代的問題と支援の場
10. 言語発達評価と診断の要点
11. 言語発達段階に即した対応
12. 場面に即した対応
13. 言語発達評価と支援の実際
14. グループ発表
15. まとめ

評価

日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40% と、期末テストの成績 60% を成績評価の対象とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】初回授業時に指示します。

科目名	発達心理学特講 B (人格・社会)		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (H) - 人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会は日々目まぐるしく変化しており、そこで生活する人々の心にも多大な影響を与えている。特に、最近では女性の社会進出は当たり前となり、複雑化していく社会の中で女性たちの生き方も多様化している。男性も女性も自分らしく生きていくために、お互いの行動、価値観、意識などに関する違いを知っておくこと、その違いが生まれる理由について考えることは有意義であろう。したがって、本講義では社会心理学の観点から、人間関係のメカニズムとそのジェンダー差についてより専門的に学ぶことを目標とする。また一般的に、男性と女性は異なる部分が多く、理解しあうことが難しいと考えられる傾向にあるが、そのようなジェンダー差に関する疑問や問題点についても講義の中では解説する。

内容

1. 女性が自分らしく生きるとは? - 性役割 -
2. 女性の強さと弱さ - 社会的勢力資源 -
3. 出会いにおける女性らしさ - 言語的・非言語的コミュニケーション -
4. 女性の自己表現 - 自己開示・自己呈示 -
5. 女性の自己表現 - 被服行動・化粧 -
6. 女性の友人関係の親密化過程 - 同性・異性の観点から -
7. 女性らしい恋愛における駆け引き
8. 女性らしい失恋への対処
9. 女性の結婚生活
10. 母と子の基本的信頼感の成立
11. 内的ワーキングモデルと恋愛関係
12. 女性にとっての離婚 - 夫婦の愛が終わるとき -
13. 職場における女性の地位
14. 女性とストレスマネジメント
15. まとめ

評価

講義内の質問カードの提出 (30点) 及び試験の成績 (70点) で総合的に判断する。ただし、2/3以上の出席がなければ、試験は受けられない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

テキストを購入する必要はない。適宜プリントを配布しながら、講義を進める。ただし、参考書などについては授業を進めながら紹介していく。

科目名	カウンセリング基礎（技法）		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（H）-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

心理的問題を解決する方法のひとつにカウンセリングがある。そのカウンセリングの基本的技法を幅広く専門的に理解を深める。その際、対人関係における自分と他人との特徴を知るということは、人間的成長にも密接につながる性格の科目である。

科目の概要

カウンセリングとはどのようなものか、またどのように進められるのかを傾聴や共感、受容といったカウンセリングの基本的な技術や技法を体験や事例を通して学ぶ。

学修目標

- ・カウンセリングの基礎基本となる技術（技法）の習得
- ・カウンセリングはどのように進められるのかを学ぶ
- ・クライアント理解の幅を広げる

内容

1	カウンセリングの方法と技法(1)
2	カウンセリングの方法と技法(2)
3	カウンセリングの進め方
4	ラポールと共感的理解の図り方
5	クライアント（来談者）理解の深化とその方法(1)
6	クライアント（来談者）理解の深化とその方法(2)
7	紙上エクササイズ(1)～ラポールづくりと共感的理解について
8	働きかけの技術(1)～良い質問、良くない質問
9	働きかけの技術(2)～質問の分類
10	紙上エクササイズ(2)～応答の要素と応答のレベル
11	紙上エクササイズ(3)～プロセスと応答
12	カウンセリングの全体像の理解(1)
13	カウンセリングの全体像の理解(2)
14	カウンセラーとしての自己点検
15	まとめ

評価

授業中の姿勢や態度、課題（30％）、試験（70％）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用する教科書：福山清蔵 著 『実践カウンセリングワークブック』 日精研心理臨床センター編

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	橋本 ヒロ子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は、「インターンシップ実習」履修の事前授業である(「インターンシップ実習」を履修する場合は必ず履修すること。社会情報学科生およびコミュニケーション学科生も「インターンシップ」を履修する場合は、必ず履修すること。心理学科生で「インターンシップ」を履修する場合は、可能な限り履修すること)。

科目の概要

企業が求めている人材とは、ビジネスマナー、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識とインターンシップの内容、インターンシップをする際の基本的な常識などについて指導する。

学修目標

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職活動に直結しないが、インターンシップを経験することで充実した就職活動が可能となる。

内容

1	ガイダンス(講義の進め方の説明、注意事項など)
2	企業とはなにか、企業が期待する女性社員
3	ビジネスマナー講座1 服装、電話の受け方、挨拶、職場での態度など
4	ビジネスマナー講座2 常識
5	企業のインターンシップ1 営業・販売(リコー・丸文堂・丸正飯塚などの担当者+学生)
6	企業のインターンシップ2 外食・食品(ケンタッキー、スカイラーク、佐藤農園など)
7	企業のインターンシップ3 メディア系(トップシーン・つばさエンタテインメント、東急ア)
8	企業のインターンシップ4 情報系(蓼科情報、クレッシェンド、東和エンジニアリングなど)
9	企業のインターンシップ5 出版系(NHK出版、あさ出版・埼玉新聞社などの担当者+学生)
10	企業のインターンシップ6 金融・企画系(りそな銀行・東急不動産などの担当者+学生)
11	自治体のインターンシップ(和光市役所、志木市役所、新座市役所、朝霞等の担当者+学生)
12	グループによる業界研究及び報告1
13	グループによる業界研究及び報告2
14	自分の適性を知り、自己PRを作成する
15	自己PRを1分間で発表、まとめ、授業評価

評価

レポートの内容(60%)、グループワークやその報告の内容(20%)、授業態度(20%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

その都度、提示する。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これには企業体験型、職業体験型、キャリアビルド型などがある。

大学での講義形式の授業とは異なり、単なる知識の習得や理解に終わるのではなく、実体験を通して現実の様子をじかに感じ取り、その現実に応えていくことの大切さを実感的に学ぶことができる。このような貴重な体験を通して、社会や企業の現実の一側面を知り、現実の仕事や職業とは何かということについて考えるとともに、自己の将来設計や職業適性について自らに問う機会となることを期待したい。言い換えれば、キャリア選択に関わる自己理解の深化と自己啓発の好機となるよう取り組んでほしい。

なお、インターンシップはあくまでも授業の一環として行われるものである。したがって、アルバイトとは異なる。その意味から、実習中の実労に対しては無報酬が原則である。また、交通費支給に関しても受け入れ先によって異なる。

内容

一定期間(実質5日間、実労35時間以上)、受け入れ先において就業体験をする。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、Aが45点、Bが45点、Cが10点である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部(H)-人間発達心理学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これには企業体験型、職業体験型、キャリアビルド型などがある。

大学での講義形式の授業とは異なり、単なる知識の習得や理解に終わるのではなく、実体験を通して現実の様子をじかに感じ取り、その現実に対応していくことの大切さを実感的に学ぶことができる。このような貴重な体験を通して、社会や企業の現実の一側面を知り、現実の仕事や職業とは何かということについて考えるとともに、自己の将来設計や職業適性について自らに問う機会となることを期待したい。言い換えれば、キャリア選択に関わる自己理解の深化と自己啓発の好機となるよう取り組んでほしい。

なお、インターンシップはあくまでも授業の一環として行われるものである。したがって、アルバイトとは異なる。その意味から、実習中の実労に対しては無報酬が原則である。また、交通費支給に関しても受け入れ先によって異なる。

内容

一定期間(実質5日間、実労35時間以上)、受け入れ先において就業体験をする。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、Aが45点、Bが45点、Cが10点である。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。